



## 大図研京都ワンディセミナー開催のご案内

### 「『場としての図書館』を形に

—京都大学附属図書館 ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館 の例 —

**概要**：昨今、インターネットの利用により、図書館に来なくても図書館サービスが受けられる環境が整い、「非来館サービスの充実」を掲げる大学図書館も増えてきました。その一方で、24時間使えて、飲食スペースもあって、グループで討論もできる、居心地のいい「場所」としての図書館を求める声も少なくありません。今回のワンディセミナーでは、施設改修によって「場としての図書館」を実現された京都大学の附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館（以下、人環・総人図書館）本館および「環 on（わおん）」を見学した後、それに携われた方々に実現までのお話をいただきます。「場としての図書館」を一緒に考えてみませんか？

**事例報告**：原竹留美氏（京都大学人環・総人図書館）  
山崎千恵氏（元京都大学附属図書館、現人環・総人図書館）

**日時**：2009年6月13日（土）13時15分～

京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館前 集合

**場所**：京都大学附属図書館および人間・環境学研究科総合人間学部図書館

**主催**：大学図書館問題研究会 京都支部

**参加費**：無料

- ※ 見学を行うため、事前申込制とさせていただきます。また、事例報告者への質問事項がありましたら、併せてお知らせください。申込方法は次頁をご覧ください。
- ※ 開始時間までにお越しください。
- ※ 終了後、懇親会を開催します。

<次頁へつづく>

### [目次]

大図研京都ワンディセミナー開催のご案内	...	1
『滞在型図書館』を目指して (大図研近畿4支部新春合同例会「公共図書館の運営と施設 — 田原市 中央図書館を例に」(森下 芳則氏) 参加報告)	上村 孝子	...
図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス-R』の舞台裏	上山 卓也	...
本の紹介 第7回 統計学を学ぶ	山田 裕子	...
支部報 No.268 に関するお詫び		...
異動 / 退職に伴うアドレス / 住所変更のご連絡のお願い		...
		10

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7. so-net. ne. jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：http://www009.upp. so-net. ne. jp/dtkk/index. htm

## &lt;大図研京都ワンディセミナー タイムスケジュールと申込方法&gt;

## ○ タイムスケジュール：

- 13:15 京都大学人環・総人図書館本館前 集合  
 13:15-13:45 人環・総人図書館本館および「環 on (わおん)」自主見学 (案内つき)  
 13:45-13:55 移動  
 13:55-14:25 京都大学附属図書館 自主見学 (案内つき)  
 14:25-14:35 休憩  
 14:35-15:15 附属図書館ならびに人環・総人図書館本館および「環 on (わおん)」についての発表  
 15:15-16:00 質疑応答・意見交換  
 17:00 懇親会

## 参考 URL

京都大学附属図書館：附属図書館がリニューアルオープン！(4/6)

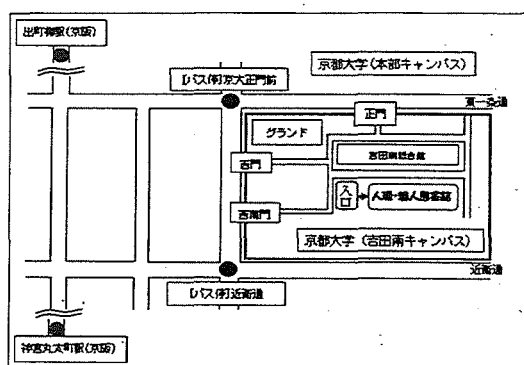
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=458>

京都大学人環・総人図書館：Library Guide -人環・総人図書館の利用-

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/guide/riyou\\_top.html](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/guide/riyou_top.html)

京都大学人環・総人図書館：環 on 一話せる図書館-

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/waon/waon\\_top.html](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/waon/waon_top.html)



## ○ 申込方法 次のいずれかの方法でお申込みください。

方法 1) 大図研京都ワンディセミナー申し込みフォームで申し込む。

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/event/20090613.htm>

方法 2) 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) 宛に (1)お名前、(2)ご所属、  
 (3)大図研の会員であるか否か、(4)懇親会に参加するか否か、(5)E-mail、  
 (6)質問事項 を知らせる。

方法 3) 奈良教育大学学術情報研究センター図書館 赤澤久弥 (FAX: 0742-27-9147)

宛に (1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、  
 (4)懇親会に参加するか否か、(5)質問事項 を知らせる。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問い合わせください。

## 『滞在型図書館』を目指して

(大図研近畿4支部新春合同例会「公共図書館の運営と施設 — 田原市中央図書館を例に」(森下 芳則氏)参加報告)

上村 孝子

2月1日、大図研近畿4支部合同例会に参加させて頂きました。大図研の集まりに出席するのは初めてのことでしたが、会場は講師の先生にとっても近い雰囲気、質疑応答ではかなり突っ込んだ話題まで飛び出していました。

講演では、田原市中央図書館長であり同館の設立準備にも携わっておられた森下芳則先生から、図書館の運営と施設についてお話を頂きました。田原市中央図書館は司書課程のビデオ教材にも取り上げられるなど、図書館建築として大変注目を浴びているとのこと。講演の後半にはそのビデオを視聴する時間もあり、利用者に喜ばれる快適な「場」の提供を目指して活動してこられた様子を垣間見ることができました。

最近の大学図書館では、カフェテリアやラーニングコモンズの設置など「場としての図書館」のあり方に注目が集まっているようです。その現状を把握できないままでした私ですが、職場の方から今回の講演を薦めて頂いたことで、「場としての図書館」について考える有意義な時間を持つことができたと思います。今回はこのように参加報告を書く機会を与えて頂いたので自分なりに、印象に残った点をまとめてご報告といたします。

田原市中央図書館の施設の概要をご紹介しますと、従来の蔵書3万冊の図書室に代えて、蔵書能力35万冊、延床面積3972㎡の図書館がオープンしたのが2002年のこと。施設は市の文化会館・総合体育館・情報センターに増設する形で建設されています。

この図書館を紹介する際、森下先生は「滞在型図書館」という言葉を使われました。1999年に設立に向けて動き出した頃から、先生が目標に掲げたことの一つに、利用者が交流を深め、快適に過ごせる公共空間の提供、というものがあつたそうです。ビデオで見せて頂いた館内には、それぞれの利用者が目的に合わせて快適に過ごせるような工夫が凝らされていました。「滞在型図書館」は当初の目標と今の図書館の状況を上手く表現した言葉だと思います。

全体としては、書架や家具は使いやすく快適なものを選ぶよう気を遣い、吹き抜けの空間や中庭からの採光により、温かい光の空間を作っておられました。以前、利用者として使った別の図書館で、書架や閲覧席のレイアウトが変わったことにより以前より薄暗く感じる空間があつたことを思い出しました。家具や採光は快適に過ごすために大変重要なことだと思います。

また、同館では図書館の利用目的に応じて様々なタイプの閲覧席が設けられています。飲食OKのくつろぎコーナーや中庭とテラスに設置されたベンチがあり、そこでは気楽に読書が楽しめそうでした。また、学習スペースとしては研究個室、グループ研究室的ほかにYAチャットルーム、畳コーナーなどがあり会話のできるスペースが確保されていました。また、個人的に嬉しいと思つたのは、書架の少し奥まった場所に人目につきにくい閲覧席を設けてあつたことです。こういった隠れ家的な空間は落ち着いてくつろぐことができ、大変魅力的だと思います。様々な利用ニーズをよく分かつていらっしゃるなと思つました。大学図書館でのラーニングコモンズの設置にあたってはゾーニングという言葉をよく耳にしますが、同館では館内に上手く閲覧席を分散させ、自然にゾーン分けを行っていると感じました。

森下先生がおっしゃったところによると、こうした図書館施設の建設のために、同館では計画段階から住民と情報交換を行う機会を度々設け、他の図書館建築にも携わってこられた設計者も交えて、図書館施設の構想を組み上げていったそうです。様々な住民の方を集めて行った

そのヒアリングは100回に及んだということでした。また基本設計がまとまった後も、行政と住民が一体となって「情報広場」という集まりを複数回開催。「情報広場」では講演会や他県の図書館見学会を行い、皆で図書館について考える機会を持ったそうです。現在、市が住民に対して行ったアンケートにおいて、市内の公共施設に対する満足度ランキングでは、図書館が堂々の一位になっているということでした。

田原市中央図書館の充実ぶりはこうしたヒアリングや情報共有の結果が実を結んだものだったのでしょうか。図書館を運営していく上では、職員の側が良かろうと思って設置した施設でも利用者の視点と上手くマッチしなければ、意味をなしません。個人的な経験ですが、大学の学部生だった頃の私が、利用者として捉えていた図書館像と、大学図書館で働き始めてから見えてきた図書館像とは全く違うものでした。図書館内部に入って先輩の職員さん方の様子を見ると、学部生の利用者とは全く異なる視点から図書館を捉えておられました。立場が違いますので、視点の相違は当たり前なことだと思います。ですが、高い利用満足を得るためには、例えば同館で行ったようなヒアリングでもって、それぞれの視点から捉えた図書館という「場」について意見交換していくことが重要なのだと感じました。

最後に、今回の講演では、森下先生のある言葉が大変印象に残りました。それは「新しいことやユニークなことではなく、日本の公共図書館が発展してきた道筋をたどり、利用者に喜ばれる当たり前の図書館活動を田原で実践したい」というものでした。当たり前とおっしゃっていましたが、普通であることが一番難しいのです。当たり前のことができていない私にとっては、身にしみる一言でした。

うえむら たかこ (大阪大学附属図書館)

---

---

## 図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス-R』の舞台裏

上山 卓也

---

---

はじめまして。国立国会図書館 (NDL) 関西館図書館協力課調査情報係の上山と申します。私の勤務する調査情報係は、係長1名、係員2名の体制で、図書館や図書館情報学に関するニュースブログ『カレントアウェアネス-R』(CA-R)の発信、メールマガジン『カレントアウェアネス-E』(CA-E)の執筆・編集・配信、季刊誌『カレントアウェアネス』(CA)の刊行、さらに図書館や図書館情報学に関する調査研究事業(2008年度は『電子書籍の流通・利用・保存に関する調査研究』)などを行っています。

この業務に携わって以来、様々な場で多くの方から決まってお質問いただくことの一つに、CA-Rの「ニュースのネタのつけかた」があります。私はいつも、「主に海外のブログや各種機関・組織のウェブサイトを見て、新しい、面白い、重要そうなネタを見つけて、それを要約して記事にしている」と説明しているのですが、この説明で上手く皆さんに伝わっているのだろうか?と、今更ながら感じています。

実は私、2006年の春に京都大学から出向してまいりました。そして来る2009年3月31日をもってNDLを無事卒業し、京都大学文学研究科閲覧掛に異動することが決まりました。そこでNDL卒業にあたり、図書館ニュースの探し方について、図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス・R』の舞台裏と題して、この場をお借りしてご紹介したいと思います。なおCA-Rの記事ができるまでの全般的な概要は、2008年の図書館総合展フォーラムで、同僚の堤恵さんが紹介しています。資料を私ども調査情報系のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』に掲載していますので、そちらもぜひご参照ください。

## 1. ニュースの探索

CA-Rに掲載している多くの記事は、国内外の各種組織・機関・ブログ・新聞・雑誌などが発信しているRSSを利用して、「これは」と思ったトピックを適宜翻訳・要約して掲載しています。RSSとは新着記事の一覧や本文の要約などを含むデータで、RSSリーダーを利用することで効率よく新着・更新情報の収集ができます。ちなみに私は、300件程度のウェブサイトをRSSリーダーに登録しています。そして日々できるだけ多くの情報にあたり、記事になりそうな話題を探しています。

300件という数字に驚かれる方も、多いのではないかと想像しますが、300件全てのウェブサイトを日々チェックしている訳ではありません。毎日更新から数か月に一度程度まで、各ウェブサイトの更新頻度は多種多様です。取り上げているテーマや内容にも個性がみられます。そこで毎日確認する、更新があるときに確認する、時間があれば確認する、といった基準を設けて、RSSリーダーをチェックしています。どのようなサイトを、どのような頻度で巡回するかは、各自が工夫しています（私の場合、一日に多くても50サイト程度しかチェックしていませんが）。頻繁にチェックしているサイトを紹介したいところですが、紙幅の都合もありますので、本稿では割愛させていただきます。ご興味をお持ちの方は、CA-Rの各記事の末尾を是非ご覧下さい。情報源となったものを必ず記載しています。

一方で、RSSで収集できない情報も存在します。まずRSSを配信していないウェブサイトがあります。またRSSを配信していても全ての新着情報を、RSSに掲載しているとは限りません。そこで注目度の高い、あるいは重要そうな情報を発信しているサイトを定期的に訪問することも欠かせません。たとえば米国議会図書館(LC)や英国図書館(BL)は、RSSを用いて新着情報や公式ブログなどの更新を発信しています。ところが、目録部門や資料保存部門など各セクションのサイトには、RSSに掲載されていない情報も多数公開されています。また日本では、残念ながらRSSによる情報配信が、盛んであるとはいいがたい状況です。RSSによる更新情報の配信に頼り切るのではなく、各組織や機関のウェブサイトも定期的に巡回して、情報をできる限り広く集めることができるように心がけています。

このほか、通勤途中に読んだ新聞の記事、国内外の各種メールマガジンなども有力なニュースソースとなっています。また最近ではありがたいことに、有益な情報を様々な方々から、直接お知らせいただくことも増えています。

このようにして収集した情報の中から、各自の判断で「これぞ」と思ったものをピックアップして、翻訳や要約の上でCA-Rに掲載しています。記事に掲載するか、あるいは見送るかは各自の判断ですし、更新作業も一人のできるのです。同じ内容の記事をほぼ同時刻に重複して掲載することもあります（その場合、どちらかの記事が涙を飲みます）。逆に全員で「これ面白いだろうか」と雑談しながら、記事を執筆することもあります（雑談で同じ記事候補を注目していたことがわかった、といったこともあります）。誰かが掲載を見送った記事を拾い上げてニュースにすることもありますが、その逆も存在します。

## 2. ニュースソースの発見

ニュースの探し方だけではなく、「ニュースソース」の探し方に興味をお持ちの方も、居られると思います。

実は「特別な秘伝」のようなものはありません。CA-Rの記事のネタ元として何度も登場しているウェブサイトを、こちらからチェックするようになり、図書館情報学関係のリンク集で紹介されているところを巡回して、「これは」と思うサイトをチェック先に加えたりしています。皆さんも仕事やプライベートで、ウェブサイトを巡回して「あ、これ面白い」というところをブックマークや巡回先に加えられた経験はないでしょうか？ これと全く同じ要領で、ニュースソースを広げ、より皆様に多くのニュースをお届けできるようにと心がけています。

## 3. 最後に

CA-Rをはじめ CA-E や CA は、国立国会図書館からの一方的な情報提供サービスではありません。世界各地から日々発信し続けられている図書館の情報を収集し、再配信することによって成り立っています。つまり、情報の発信という日々の実践の上に実現している事業であり、図書館職員や図書館情報学研究者との双方向的なやりとりであると考えています。世界各地から発信されている図書館の英知が詰まった『カレントアウェアネス』を、今後もご愛読ください。そして、情報の発信、提供、利用というサイクルの中に、ぜひご参加ください。

末筆ですが、このような貴重な経験を与えていただいた国立国会図書館の皆様、さらに様々なかたちで支え続けていただいた方々、執筆の機会を与えていただいた大学図書館問題研究会京都支部各位に、改めてお礼申し上げます。

### <参照ウェブサイト>

- ・ 国立国会図書館. “カレントアウェアネス・ポータル”. <http://current.ndl.go.jp>, (参照 2009-03-28).
- ・ 堤恵. “図書館員の「知」を活用する：カレントアウェアネス・ポータルの場合”. カレントアウェアネス・ポータル. 2008-11-28. [http://current.ndl.go.jp/files/presentation/20081128\\_forum\\_caportal.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/presentation/20081128_forum_caportal.pdf), (参照 2009-03-28).

うえやま たくや (国立国会図書館関西館図書館協力課調査情報係)

## 本の紹介 第7回 統計学を学ぶ

山田 裕子

統計学は簡単に言えば、情報（データ）を分析し、その特徴を把握し、行動指針を定めるための学問です。

統計学は日常生活においても役に立ちます。統計学を学べば、新聞やテレビでよく使用される「偏差値」や「出生率」といった用語の本当の意味を知ることができますし、統計データの不適切な選定や加工によるミスリードを見抜く目も養えます。私たちは常に物事を判断し意思決定を行っていますが、直感や主観に頼った結果、非合理的な思考によって誤った判断を下してしまうこともあります。統計学は物事を客観的に捉えて判断する助けになります。

その例として、全学的な利用者アンケート調査を行うとします。大学の全ての構成員（これを母集団と呼びます）にアンケート調査をすれば、時間もお金もかかります。そこで統計学では、母集団に比してどのくらいの割合の調査票（これを標本と呼びます）を集めれば、そのアンケート結果は母集団の特徴を、信頼性を持って表すと言えるか。また、集団の特徴を示す値（これを代表値と呼びます）として平均値を用いるべきか、それともデータを大きさの順番に並べたときの中央の値（これを中央値と呼びます）を用いるべきか。といった問いに答えを与えてくれます。

統計学は物事を客観的に捉えて判断する助けになるとはいつても、調べたいデータを「処理装置」に入れれば「客観的」な答えを直ちに出してくれる便利なツール、という側面からの客観性ばかりが強調されてはいけません。時には主観的に仮説を立て、適当な分析対象を定め、規則性あるいは不規則性を把握し、適切な形で分析結果を提示し、合理的な意思決定を行う、この一連の能動的な態度を育むのが統計学を学ぶ主要な目的といえます。

大学図書館の職員としても統計学を学んでおいて損はないと思います。なぜならば、統計学の手法や考え方は経済学、経営学、政治学、社会学、医学、薬学、心理学、教育学、言語学などの幅広い分野で頻繁に用いられているからです。利用者である教官や学生が学んでいる内容を実際に知ることは思いがけない効用をもたらすことでしょう。

また、冒頭の例からも分かるとおり、業務にも直接役立ちます。例えば、利用者アンケートを作成、集計し分析する、貸出状況についてのデータを分析する、利用者が入力した検索キーワードを分析する、といった場面が考えられます。分析作業それ自体に関わることはなくても、提示された分析結果から正しく規則性を読み取る能力や、利用者にどのようなサービスを提供するかを適切に判断する能力は普遍的に求められているのではないのでしょうか。

以下、統計学を学ぼうと有用な本を何冊か紹介します。今回は、実務で統計を使うための本（例えば統計ソフトの解説本）には触れません。また、ウェブ上にも統計学を学ぼうと役立つサイトがいくつかありますが、これも省略します。

数学から遠ざかっていて、統計学に始めて触れる場合は次の本をおすすめします。

小島寛之 (2006) 『完全独習 統計学入門』 ダイヤモンド社

統計学の概略について知ることができます。使用されているのは中学程度の数学ですので、ストレスなく読むことができます。

鳥居泰彦 (1994) 『はじめての統計学』 日本経済新聞出版社

総和記号 $\Sigma$ （シグマ）や階乗の意味まで懇切丁寧に説明されています。「入門」と銘打った本はいろいろありますが、真の意味での入門書と言えるでしょう。

統計学の基本を理論的に学びたいという方には以下の本が良いと思います。

豊田利久[ほか] (2002) 『基本統計学』(第2版) 東洋経済新報社

解説に高校レベルの数学が用いられています。数式は単純なものばかりですが、人によっては数学のテキストを併用しなければならないかもしれません。ちなみにこれは私がメインで使用している教科書ですが、高校数学から離れて久しい自分にとっては別に数学を学びなおす必要がありました。数学が得意な方はさらに上級の入門書がいくらでもありますのでご自分のレベルに合う一冊を探してみてください。

このレベルの教科書をマスターしておけば、統計ソフトや表計算ソフトの解説書を読むときも理解が早くなります。また、より高いレベルの統計学を学ぶ際の足がかりにもなるでしょう。つまり「ハブ的」な一冊です。統計学も幅広く応用が利くという意味でハブ的と言えます。

統計学を体系的に学ぼうとするとき、微積分などの数学は避けて通れません。「数学」というだけで頭がこんがらがってしまう方もいると思いますが、本来数学は「世界共通の言語」であり、ものごとを単純に記述するための学問です。数学が分かれば統計学の手続きをシンプルに理解することができるようになります。

とは言っても脳が数式を受け付けない、という場合は次の本をお読みください。

小島寛之 (2004) 『文系のための数学教室』(講談社現代新書) 講談社

数学の有用性を知り、数学を少しでも好きになるための一冊です。数式は殆ど出てこないののでさらっと読めます。

統計学の勉強と並行してこのような本を読んでもいいかもしれません。

ピーター・バーンスタイン著 青山護訳 (2001) 『リスク 神々への反逆』(日経ビジネス人文庫) 日本経済新聞出版社

未来を予測するため、確率論、統計学(つまりリスク学)を生成し発展させてきた歴史を、ベルヌーイ、パスカル、フェルマー、ガウスのような人々の業績を紹介しながら生き生きと描いています。今日私たちは意思決定を行うとき、事象の生じる確率について考慮することをまるで本能のように感じているかもしれませんが、実はそうではなくて数学的知識が大きく影響しているのだということが分かります。統計学を勉強しようという方でなくても、読み物として面白く内容の充実した本ですので、ぜひ読んでいただきたいと思います。

本を数冊紹介しながらとりとめもなく書きましたが、統計学へのアプローチは人それぞれです。実務上必要に迫られて勉強するしかないという方なら、統計ソフトの解説書やアンケート調査法を統計学の観点から説明した本など、実務に即した解説書から読み始めればよいでしょう。金融に興味のある方はその方面に役立つ統計学の本を利用すればよいと思います。ただし、統計学を本質的に理解し「ハブ的学問」として応用を利かせたいなら、一冊は理論的な本に手をつけるべきでしょう。

今回紹介した本以外にも有用なものが沢山ありますので、ご自分に合ったタイプ、レベルの本を選んで試しに数冊読めば、統計学のあらましがわかるかと思います。その場合、「複数冊」読むことをおすすめします。私自身統計学を勉強中ですが、理解が進まず嫌気がさすこともあります。そういうとき複数冊を並行して読んでみると、情報が頭の中でリンクして新しい発見が生まれ、理解の助けになります。

#### 参考文献

- ・上記で紹介した文献
- ・松原望 (2009) 『わかりやすい統計学』(第2版) 丸善
- ・吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

やまだ ゆうこ (京都大学経済学部図書室)



◆ 支部報 No.268 に関するお詫び ◆

支部報 No.268 に掲載の、寺升夕希様（滋賀医科大学附属図書館）による「大図研京都ワンディセミナー参加報告 実践女子大学・短期大学図書館の事例と DOAJJ について」（p.5-7）において、編集担当のミスにより、寺升様よりいただいた原稿の一部（最終段落）が掲載漏れとなっていました。著者の寺升様に心よりお詫び申し上げますとともに、ここにその最終段落を掲載させていただきます。

なお、原稿全体は、京都支部ホームページ (<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>) 支部報目次 No.268 部分に掲載しておりますので、そちらもご参照ください。

今後このようなことのないよう十分留意して編集を行う所存です。

(支部報編集担当)

---

「大図研京都ワンディセミナー参加報告

実践女子大学・短期大学図書館の事例と DOAJJ について」

寺升 夕希

<No.268 掲載部分より続く>

DOAJJ 企画段階で一般に普及している外国産電子ジャーナルリストの調査が行われ、その結果やはりオープンアクセスの雑誌が掲載されていない事実が明らかになり、「リンクリゾルバ大丈夫？」と問いかけられました。この問いかけには、正直ドキッとさせられました。なぜなら、伊藤さんの指摘するとおりに通常利用しているリンクリゾルバに絶対的な信頼を置いていたからです。今回のセミナー参加後は、ILL 依頼をする前に従来の書誌・所蔵・電子ジャーナルのチェックに加えて必ず DOAJJ でも確認しています。

少し話が外れますが、質疑応答の最後に「図書館がどんどん便利になって、私たち職員はよかったよかったと喜んでいるけれども、ただ環境だけを整えればよいというわけではないはずです。環境を整えれば、もっと活用してもらわなければならないと、図書館員は利用者に向けた広報を重点的に考えていかなければならないと思います」というご意見があり、とても印象的でした。高額なデータベースや電子ジャーナルを購入したり、リンクリゾルバのような便利なサービスを導入しても利用者が使わなければそれは全く意味がありません。今後、サービス導入に満足せず次の段階として広報にもより力を入れなければとあらためて感じました。

\* 異動 / 退職に伴うアドレス / 住所変更のご連絡のお願い \*

平素より、大学図書館研究会京都支部の活動にご参加くださり、誠にありがとうございます。  
さて、4月から新年度が開始されるに伴い、新たな職場へと異動され、メールアドレスが  
変わられた方もいらっしゃると思います。

つきましては、大図研京都支部からの諸連絡を円滑に継続させていただくため、お手数です  
が新しい所属とメールアドレスを

dtkk@rg7. so-net. ne. jp までご連絡いただきたく思います。

また、ご住所の変更等により、支部報の発送先が変わられる方も、新たな送付先を上記のア  
ドレスまで必ずご連絡お願いいたします。

併せて、メーリングリスト「ML ゆりかもめ」に登録されているアドレスが変わられる方は、  
<http://www009. upp. so-net. ne. jp/dtkk/yurikamome. htm>  
より、変更の手続きをお願いいたします。

何かご不明な点がございましたら、

dtkk@rg7. so-net. ne. jp までご連絡をお願いいたします。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わ  
しくない状態にあります。既に2008年度(大図研会計年度2008.07 - 2009.06)に入っ  
ておりますので、2008年度の会費の納入をお願い致します。また、2007年度以前の会費をお  
納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお  
願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7. so-net. ne. jp)、または支  
部委員(組織・財政担当)の渡邊伸彦 (〒606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学附属図  
書館資料管理掛気付 渡邊宛 電話:075-753-2647) まで。